Windows 7® ライセンス認証の改善

正規ソフトウェアの使用により、ソフトウェアが信頼できること、またマイクロソフトおよびそのパートナーによって完全にサポートされることが保証され、同時にセキュリティ上の脅威に対する防御の支援も受けられます。

Windows 7 オペレーティング システムのリリースでは、マイクロソフトはボリューム アクティベーション (VA) のテクノロジおよびツールを大幅に改善しました。ソフトウェアの認証の確認、ソフトウェアが信頼できることとマイクロソフトおよびそのパートナーによって完全にサポートされることの保証に加え、Windows 7 に組み込まれた認証テクノロジでは、以下のような改善がなされました。

* インターフェイスの改善による、ユーザビリティとカスタマイズの向上
* より簡単で柔軟になったライセンス認証による、管理リソースの削減
* ライセンス認証サービスとライセンス認証キーの統合と管理の強化による、さらに高度な管理制御
* パフォーマンスの向上とメモリの占有領域の削減による、効率性の向上

これらの機能強化のほとんどは、お客様およびパートナーからマイクロソフトが受け取ったフィードバックを直接反映したものです。その結果、基本的な VA ツール セットには変更が加えられなかったため、組織は、現在使用しているライセンス認証インフラストラクチャを再整備することなく、これらの VA の強化機能を利用することができます。ライセンス確認はこれまで通り、ボリューム アクティベーション管理ツール (VAMT)、マルチ ライセンス認証キー (MAK)、およびキー管理サーバ (KMS) によって行い、また同時に、認証されていないキーの使用によるリスクを軽減します。

ボリューム アクティべーション

Windows 7 の VA 機能は、Windows Vista® で導入された基本的な VA ツールとサービスをベースに構築されています。

* キー管理サービス (KMS)。KMS を使用すると、組織は管理環境におけるライセンス認証のホスティングと管理が可能になります。KMS を使用する組織は KMS キーを受け取ります。このキーは、組織内にセットアップされた 1 台または複数の KMS ホスト上にインストールできます。システムは KMS ホストに接続し、透過的にライセンス認証を実行します。
* マルチ ライセンス認証キー (MAK)。MAK を使用すると、組織はマイクロソフトがホストするライセンス認証サービスを使用して、組織内のそれぞれの有資格システムをアクティブ化できます。各 MAK には、組織内の有資格システム数に合わせて、あらかじめ定義された数の許可ライセンス認証が格納されています。
* 通知。ライセンス認証が事前に定義された期間内に実行されなかった場合や、既存のインストール上でライセンス認証の問題が発生した場合は、非準拠のコンピュータ上に、ライセンス認証に問題があることを警告する通知が一定時間おきに表示されます。

既存の VA サービスとツールの詳細については、『ボリューム アクティベーション概要ガイド』 (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=149823>) を参照してください。

ライセンス認証の改善

Windows 7 と Windows Server® 2008 R2 での主要な VA 機能拡張に関する重要な事項について、以下で説明します。

ユーザー エクスペリエンスの改善

VA ユーザー エクスペリエンスを改善したことにより、組織はインターフェイスをより的確にカスタマイズし、潜在的な問題をこれまで以上に回避し、ライセンス認証の問題をさらに迅速に解決できるようになりました。

* インターフェイスのカスタマイズ。組織は、組織内のユーザーが快適な操作性を得られるように、さまざまなインターフェイス要素を変更できます。たとえば管理者は、URL をカスタマイズすることで、ライセンス認証関連の問題が発生した場合も迅速かつ管理された解決を実現できます。
* メッセージングの改善。トラブルシューティング情報の追加を含め、エンドユーザーと管理者の両方のエラー メッセージが改善され、わかりやすくなりました。
* **改善された通知。**通知ダイアログでは、問題をさらに迅速に解決できるよう、より多くのアクションベースの情報およびオプションが提供されるようになりました。

展開の一部としてのライセンス認証の改善

 Windows 7® ライセンス認証データ シート

その他のリソース

* ボリューム アクティベーションの詳細情報: <http://technet.microsoft.com/volumeactivation>
* ボリューム ライセンス サイト: <http://microsoft.com/licensing>
* Windows 自動インストール キット (AIK) の詳細情報:
<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc748933.aspx>
* Windows 7 Enterprise Edition の詳細情報: <http://microsoft.com/windows/enterprise/products/>

VA テクノロジは、お客様の現在の IT インフラストラクチャとスムーズに統合できるようにするため、次のような改良も行われました。

* **仮想システムのカウント。**Windows Vista リリースの KMS では、最初に十分な数の物理マシンを揃えることによって、仮想システムのライセンス認証が可能となっていました。Windows 7 の KMS では、KMS ライセンス認証に必要とされる最小数に関して、物理マシンと仮想マシンの*両方*がカウントされるようになりました。これにより、KMS は、インフラストラクチャの仮想化に強く依存している組織にとって重要なオプションとなりました。
* **DNS の改善。**KMS の登場以来、KMS とクライアント間のライセンス認証プロセスは、"SRV A" レコードを使用して自動的かつ (エンドユーザーと管理者の両方にとって) 透過的に行われるようになっています。Windows 7 では、管理者がドメイン ネーム システム (DNS) 環境全体における KMS とクライアント間の対話をより詳細に制御できるため、次のことが可能になります。

クライアントがさまざまな DNS ゾーンにまたがって存在している場合も、特定ゾーン内の 1 台のホスト上に KMS をインストールすることができます。

SRV DNS レコード ホストの優先度と重みを使用して、複数の KMS ホスト間でトラフィックを分散させることにより、ネットワーク管理者は分散環境における KMS クライアント動作を細かく調整できます。

* **トークンベースのライセンス認証。**ライセンス認証が必要なシステムが、ネットワークや電話回線による接続が行えない環境にあるなど、特殊な状況において使用されます。トークンベースのライセンス認証は、認証されたマイクロソフト ボリューム ライセンス (VL) のお客様が利用できる、ライセンス認証の代替オプションです。このオプションでは、お客様は、マイクロソフトのライセンス認証サービスまたは社内の顧客インフラストラクチャのどちらにも問い合わせることなく、お客様独自の公開キー基盤 (PKI) とデジタル証明書 (通常はスマート カードに保存された "トークン") を使用して、Windows 7 のライセンス認証をローカルで実行できます。

管理の改善

管理者がライセンス認証サービスの展開とライセンス認証キーの両方をより管理しやすくなるように、以下のような改良が行われました。

* **Windows Management Instrumentation (WMI) プロパティの拡張。**Windows 7 では、ソフトウェア ライセンス サービスのクラス WMI のプロパティとメソッドが拡張され、さらに柔軟で制御しやすくなりました。たとえば、管理者は残りの猶予期限リセット可能回数にアクセスできるため、管理者が知らないうちに可能回数が残り少なくなっているという状況を回避できます。
* **ハードウェアの許容範囲値の変更。**Windows 7 では、許容範囲を超えたことによって再ライセンス認証が必要になることが少なくなりました。
* **統合された管理ポータル。**これまでの VL ポータルはすべて、改善されたボリューム ライセンス サービス センター (VLSC) に統合されました。組織が、アクセスしやすい 1 つの場所からすべてのキーを識別、追跡、編成できることを目的とした多くの改善が、この 1 つのポータルに組み込まれました。
* **MAK 制限の透過的な処理。**Windows 7 では、お客様の MAK 使用状況が現在の MAK 制限値に近づくと、マイクロソフトがホストするバックエンド サービスによって、制限値が自動的に変更されるようになりました。手動による管理より時間が短縮されます。

効率性の改善

前述した機能の改良に加え、サービス実行の最適化や、ディスクの入出力とメモリの占有領域の削減により、Windows 7 VA テクノロジとツールの実行が効率化され、必要なシステム リソースが低減したため、ライセンス認証の実行における安全性や柔軟性が向上しました。

法人のお客様向けの Windows 7 の詳細については、<http://microsoft.com/windows/enterprise> を参照してください。